

プロジェクト名称

旧山古志村の未来を考えるプロジェクト

プロジェクト活動概要

新潟中越地震からの復興と遂げた旧山古志村において、地域活動コーディネーターとして自立支援を行う。本年度は主に、アルパカ牧場を全国に広め、「山古志村のアルパカ」を確立する。多くの人に山古志村の良さ、地域資源、復興を遂げた現在の姿を知ってもらう。

活動状況報告&活動写真など【活動期間:2012年6月18日～9月30日】

* 豊洲ワークショップ(アルパカ椅子のデザイン)

やまこしアルパカ牧場からの要望で、休憩スペースに設置するベンチを作った。

“東京と山古志を繋げよう”というコンセプトのもとに、豊洲に住む幼稚園から小学校のこどもたちを対象にワークショップを行った。

事前に用意した木の板に思い思いのアルパカの絵を描いてもらい、それを東京の子供たちからのメッセージとして山古志に運んだ。



たくさんの方に参加していただきました

* 椅子づくり



現地では材木屋さんと相談し、設計図を作成。丸太など機械を使わなくてはカットできないものも、設計図に合うよう切り出して頂くなど、とても親切にして頂いた。



それらの材木も防腐剤を二重に塗布しやすりをかけて、ベンチを組み立てる。豊洲ワークショップで子供たちに描いてもらった絵は、姉妹や友達同士、色合いなどで組み合わせを決め、椅子に接合。1人掛けや3人掛けなど、バリエーションを多くした。



牧場の柵にもこの絵を配置していく。



これらの椅子は現在やまこしアルパカ牧場にて使われている。牧場のリピーターは椅子が変わったことに気づき、私たちの活動に興味を持ってくれた。「一生懸命作ったからたくさん使ってほしい」と豊洲のワークショップに参加してくれていた子供たちが言ったように多くの人に使われ、地域に愛される場所になることを期待。

* 山古志ワークショップ

去年も行った山古志ワークショップを今年も開催。これに加え、芝浦祭に出品する山古志汁の試作も行い、地元の方や、ワークショップの参加者に食べて頂いた。豊洲のワークショップを参考に、当日参加者を多く募ったことで、この活動を知らない人に参加して頂くことができた。

去年のアルパカ人形は好評であったが、制作に時間がかかってしまい、気軽に参加出来るワークショップではなかった。この反省点を元に、サイズの小さいアルパカ人形を試作することに時間をかけた。小さいアルパカ人形はバッジやマグネット、ストラップなどのバリエーションを加えることも可能で、ワークショップ時には試作の作品を欲しいというお客さんもいた。



ターゲットを絞らず行ったワークショップであるが、やはり参加者の大半は親子連れであった。今度は様々な年代の方が参加できるような、また集落の方と教え合いながら行えるようなワークショップの考案をしていきたい。

また、芝浦祭で販売する予定の山古志汁は、試作を兼ね、ワークショップの参加者および集落の方に試食して頂いた。美味しかったとの言葉は頂けたものの、まだ味の調整が必要であるため、芝浦祭に向け試作を重ねていきたい。

この日、前回設置したアンケートを回収。嬉しいことに豊洲で行ったワークショップ参加者が山古志の地に足を延ばしてくれたことが分かった。

* アルパカ牧場パンフレット作成

アルパカ牧場について紹介するパンフレットを作成。長岡市内からのアクセスや牧場についての案内を記載している。このパンフレットは牧場や市内の施設、店舗などに置かせてもらっている。

今後の活動計画、目標、意気込みなど

10月からは主に芝浦祭に向けての準備、アルパカ牧場のメンテナンスのお手伝いなどを行っていく。今回から牧場常設のアンケートを作成したので、牧場の利用率や客層などのデータが取れることを期待し、これからの活動につなげていきたい。